

経済学史学会 年報

第 38 号 November 2000

【特集】私の経済学史研究 — 20世紀の学史研究をふりかえって

序 日本の経済学史研究と経済学史学会	馬渡 尚憲 (1)
わが経済学史研究の思い出 — 日本経済学史研究への途 —	飯田 鼎 (6)
『国富論』の学史的位置の相対化 — 諸文献の発掘とともに —	小林 昇 (13)
哲学なき経済学史研究を超えて	塩野谷祐一 (21)
日本経済思想史研究のこれまでと今	杉原 四郎 (28)
アダム・スミスへの道 — 私の経済学史研究 —	田中 正司 (37)
アメリカ経済学史研究の潮流と私	田中 敏弘 (45)
オウエンとベンサムとかれらの周辺	永井 義雄 (52)
国際貿易理論史上の二問題	根岸 隆 (59)
経済思想研究と若干の基本問題	菱山 泉 (66)
我国の戦後リカード研究の回顧	真実 一男 (76)
社会思想史研究の60年 — 1939-99 —	水田 洋 (83)
アダム・スミス, カール・マルクスを通過して — 私家版・経済学史研究の50年 —	宮崎 犀一 (91)

【論文】

ヒュームにおける「奢侈」と文明社会	壽里 竜 (98)
ジェイムズ・ステュアートの利子概念	古谷 豊 (111)
リカードの労働価値理論の論理構成	福田 進治 (123)
F. ナイトにおける経済学の倫理性と科学性	藤井 賢治 (134)
ケインズの金融的動機 — ポストケインジアン解釈を巡って —	内藤 敦之 (146)